

●東京都町村議会議員講演会（東京都） 岩崎 由美

令和8年5月7日 15時00分～17時00分

目的：議員の研修

演題 「議会の災害対応とBCP」

講師 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科
教授 鍵屋 一 氏

成果

R7の台風22, 23号による甚大な災害が発生した八丈町にとってタイムリーな講演内容だった。ナマハゲ台帳、災害被災の方程式、人材の減少、ひなんさんぽ、などなど議会BCPでカバーしなければならないことについて密度濃く学ぶことができた。

講演を受け、八丈町において、どのようにこれらの課題を解決するために考えられること。

○先般の台風時には、それぞれが動いた。先行事例を参考に、行政側と協議の上、早急な議会BCPの立案が必要である。

○秋田のナマハゲは、平時は五穀豊穡や家内安全を祈る来訪神だが、災害時は要配慮者情報（ナマハゲ台帳）に基づいて避難支援を行うボランティアとなる。通常から地域でそれぞれの家庭を注視し、状況を把握している。人材が減少する中、このような仕組みを作ることは難しいが何らかの組織が必要である。人のつながりを活かすことが重要だ。

○避難訓練の見直し。50年前の台風を教訓に年1度の避難訓練が行われているが、どちらかというと住民は体験ではなく、聴講という形が多く、内容的には形骸化していると感じる。全町民が年に一度は訓練を体験的な訓練を行えるようなものにしなければと考える。防災訓練だけではなく、例えば地域の人が集まるクリーンデーなどは良い機会だと思う。

○観光地としての防災対策。八丈町は観光産業がメインであるが、災害時に観光客にどのように対応するかについて、観光協会等を中心に検討していかなければならない。

○台風のみならず、災害にはさまざまな種類がある。離島である八丈町は食料やエネルギーを本土に依存しているが、首都直下型地震や、富士山噴火などが発災すればそれらの供給が途絶えることが予想される。その際の対応について検討しておかなければならない。

○離島間の協力

R7年には三宅島で火山活動が活発化したことがあった。災害の種類によって対応が異なるが、島嶼間で防災協定などを結んでおくことも必要だと思われる。